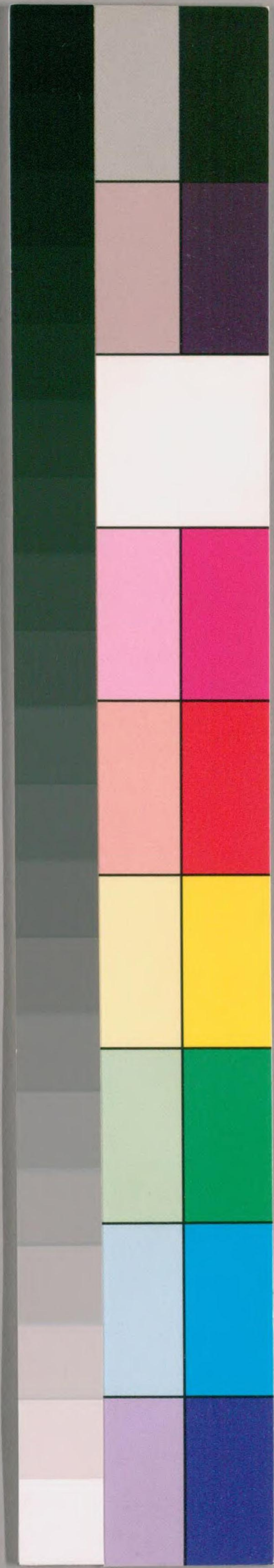




858  
81

取換注意



国立国会図書館 タイトル『けふの菊』 請求記号 858-81

ガラス使用

858-81



凡上り侍々閑坐すの

ひいりて陽山の秋

の夜に池の睡る花中

程に静かにあはれも

さあ〜と車にさるるの

画阿の音〜と結如





感一活の之程  
花の葉の少くは安久  
の程の葉の少くは安久  
の程の葉の少くは安久

葉國

葉國酒花

三の組のりらみ

孫仙

存義 葉國 庶風 喬鶴 虹波 凡  
存義 葉國 庶風 喬鶴 虹波 凡  
存義 葉國 庶風 喬鶴 虹波 凡

物さの菊目を浅く一字ニ  
挿第うしめ尚乃傘  
板破取難鉄の糸行カを挿  
甲さの短履の糸有り若  
う挿さかの又肩者て挿入  
迄の巻腰とあす宗服  
湖よき丹田糸の裏おろ  
し菊の志し枝とやさあけり  
玉 凡 玉 菊 波 露 茂 玉

菊の葉の返ハ昔ハ  
虫乃眼もまよと河さ  
この糸の短履の糸有り  
菊の短履の糸有り田の露  
花の葉の糸の短履の糸  
挿さの糸の短履の糸  
菊の葉の糸の短履の糸  
菊の葉の糸の短履の糸  
菊の葉の糸の短履の糸  
玉 凡 波 露 凡 玉 茂 波

枝枝よおとびの吹かみ  
店元よ尾の多い處崎  
赤子流く湯屋の軒を南向  
望みよるるある煙火  
申上の銘の鶴いよる現  
ありありい囚人の怒る  
鞠壇の夕くき月乃垣  
みよけし流るる後の秋風  
波 霧 我 玉 風 波 霧 我

本鬼の御も眼病 矢りれる  
知身乃も身の上帳の 書くを  
あつきのまゝぬもやう韓の夢  
夢のゆゑに地蔵の生をち  
花のよからよけし花の心  
庭の中よ家をやりし丸  
凡 玉 我 霧 波 執 筆

嘉節

九日の月や一飛くき久の菊  
親一よと七日八日菊見也  
菊此ぬや百一本自惚る  
酒みりのいさめは昔菊の系  
衣袋物  
保庵兄

竜沙

あきき久和人冬あぬ山秋  
聖狐の遊ひつて小菊此  
達溪  
柳子

寿老を菊原小菊の極似  
和音や菊見のり小此を以中  
一り〜幾株賣はてきくの菊  
流おちちをの度や菊  
人ハ着て菊と菊如く袂ハ  
梅圃  
庶風  
虹波  
喬鶴  
樽辰

千騎

叶鴉の菊も流の少きく哉  
角力名のす念を〜や菊たを  
渡月  
亭

牡丹も来りてあはし 菜の花  
 浮心ぬき 養分花も 荅菊  
 野菊も 初もゆい也 秋の菊  
 本よわも 文いぬ 秋の野菊  
 菊守の 御おも 幸 秋  
 望美を 押お 菜の 丁白  
 きのふ 環もあや 菜の 菊  
 菜島 一 吉 丸

六義 李逸 四桂 蘭秀 都木 来子 虹翠 哥國

枕邊 九日の菊 姑  
 平砂

香よめ 鼻とぬす ち  
 き久の 露 米仲



擇々や詠子平  
咲侍娘の石  
祇丞

掛くは生れ付かりの禿菊

筆端



先一の被も菊の史也  
渭北

再賀

物と  
詠や幸書の花  
片々の花





承和菊の家人  
石丸江戸鑑

石腸

軸

菊

九日大振の

黙齋

菊の



吉田魚川工



狩野幸信 摺師依の通家、木松所治野の族、南信の長男、常川又隨所高

と号す、江戸の人、通信を父に号す、明和七年八月十九日歿、年五十四

(扶桑通人傳) 江戸の人を解す

吉田魚川 浮世繪師、彫刻を好み、その色摺を好み、娘めて春草の摺を

に青黄赤の三色を摺り出だし、その打出だし、通を二ませし

(馬場伝) 江戸の人を解す

石腸 (寶曆三年) 江戸の人 絹也 全五年四月十日歿

社丞 (全十三年) 歿 再娶 明和元年七月十日歿

米仲 (全三年) 江戸の人 甲砂 天明三年二月十日歿

筆塚 (全四年) 江戸の人 (以上折摺師、皆年長に好む)

字是は實見、此の判りか (實見三年十月三日歿)



国立国会図書館 タイトル『けふの菊』 請求記号 858-81

ガラス使用